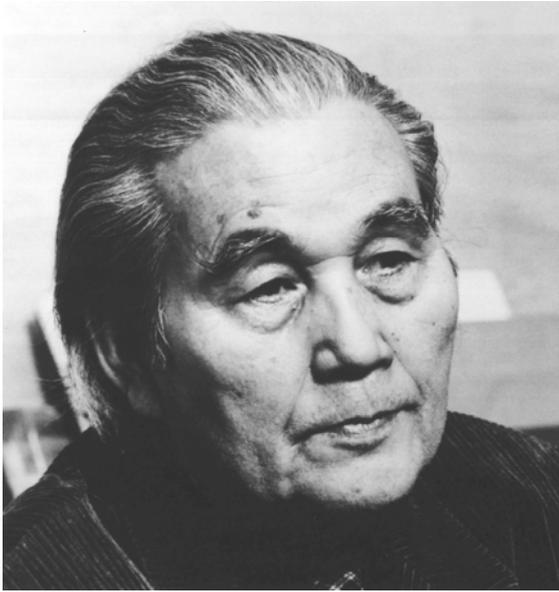


故 今 野 忠 市 氏

(大正4年3月26日～平成18年4月15日)



■ 略 歴

- 大正 4年 3月 干布村に生まれる
- 昭和 4年 3月 干布村立尋常高等小学校卒業
- 昭和15年 3月 財団法人日本美術院同人郷倉千靱に師事
- 昭和34年 9月 財団法人日本美術院同人
- 昭和40年 4月 跡見学園短期大学講師
- 昭和41年 4月 跡見学園女子大学講師
- 昭和45年 4月 サンケイ学園講師
- 昭和50年 9月 財団法人日本美術院評議員
- 昭和53年 4月 愛知県立芸術大学教授
- 昭和58年 3月 財団法人日本美術院監事
- 昭和63年 6月 財団法人日本美術院理事

■ 受 賞 歴

- 紺綬褒章 (昭和50年)
- 勲四等旭日小授章 (昭和62年)

事 績 (称号贈呈時点のものです。)

今野忠市(雅号: 忠一)氏は、現在、日本美術院の理事として、また、日本画壇の重鎮として活躍されていることは、本市はもとより、山形県においても大きな誇りとするところである。

氏は、大正4年に本市干布に生をうけ、若くして画業で身を立てる固い決意の下に苦学の道を選ばれた。後藤松亭、児玉希望に師事、さらに昭和15年には当時の日本画壇の重鎮で日本美術院同人の郷倉千靱に師事し、研鑽を積まれた。努力と持ち前の天性によって氏の画業は高く評価され、昭和34年には日本美術院の同人に推挙された。

氏の人格と画才を慕う人は非常に多く、本市のみならず広く日本画を志す人々の師として、跡見学園短期大学、同女子大学、サンケイ学園で指導、また愛知県立美術大学教授を歴任されるなど、後進の育成にも力を尽くされ、門人の中からは、一線級で活躍中の人も数多く輩出している。

また、天童市美術館を建設するにあたり、日本を代表する氏の作品を常設したいとの申し込みを快く了承された上、氏所有の貴重な作品6点を寄贈、さらに、作品の収集についても適切なる助言、指導をされ、今後の展観の充実に大きな貢献をされた。

氏はこれまで、本市に対する絵画の寄贈に対して紺綬褒章、昭和62年には我が国の芸術文化の振興に対して勲四等旭日小授章を受けられるなど、人格、実績全てにおいて名実共に天童市民の等しく誇りとされる人物である。